



令和 8 年（2026 年）4 月 7 日 公表  
 令和 7 年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

ヤリイカ（対馬暖流系群）

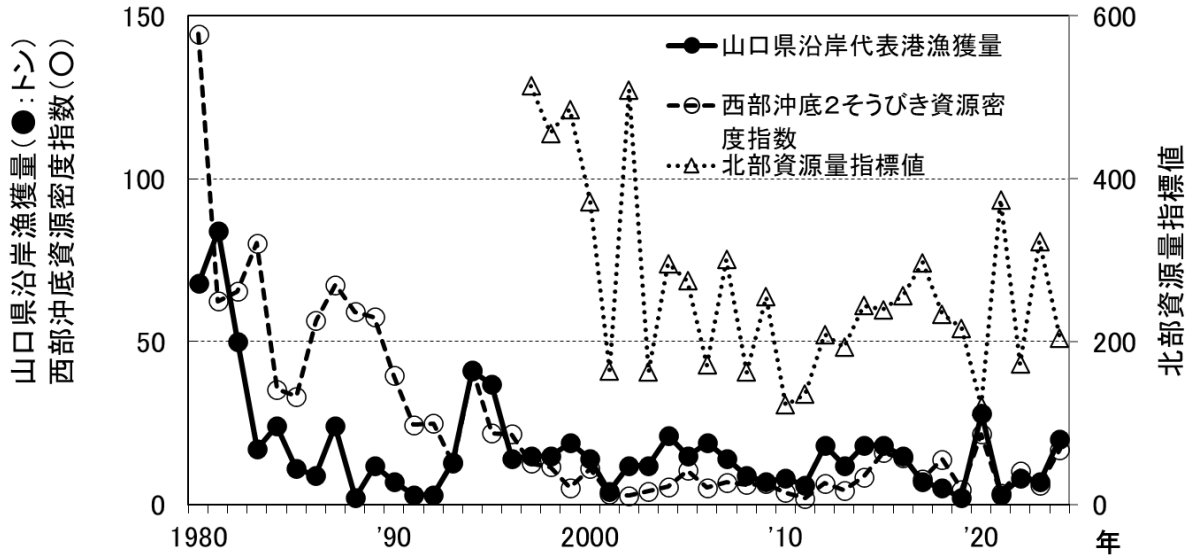


図 山口県日本海代表港のヤリイカ漁獲量、西部沖底 2 そうびき資源密度指数及び北部資源量指標値（(国研) 水産研究・教育機構資源評価報告書）の推移

【漁業】ヤリイカは沖合底びき網および沿岸のいか釣りや定置網で主に冬～春に漁獲される。沿岸で漁獲されるのは産卵群である。

【漁獲量】山口県日本海沿岸代表港の漁獲量は、1980 年以降では 1981 年の 84 トンをピークとしてその後急激に減少し、1983 年～1993 年には 24 トン以下になった。1994 年及び 1995 年にはいったん 40 トン前後に増加したが、1996 年以降は 28 トン以下で推移している。2024 年の漁獲量は、前年からやや増加し 20 トンであった。

【資源状態】本系群の資源水準・動向は、西部海域（福井県～山口県）では、沖合底びき網（2 そうびき）の資源密度指数から、低位・横ばいと判断された。北部海域（北海道～石川県）では、青森県太平洋側の沖底（かけまわし）の資源密度指数ならびに青森県日本海側の底建網漁業の CPUE の幾何平均を資源量指標値として、低位・横ばいと判断された。系群全体としても、資源水準は低位、資源動向は横ばいと判断された。

資源の水準・動向		2024 年漁獲量	2026 年 ABCtarget	2026 年 ABClimit
水準	動向	(トン)	(トン)	(トン)
低位	横ばい	1, 713	1, 135	1, 418